

訪問リハビリの魅力と首都圏の特徴について 濱田 彩夏氏 (株)One World Family への取材



取材者のコメント

作業療法士 (以下:OT) としての資格を取り、地元高知の病院に就職し、はや数年経ちました。私自身、日々の臨床の中で、在宅支援に携わっているOTの方々の業務内容等に興味がありました。そこで、住み慣れた場所や環境も一変し、東京都で訪問リハビリテーション (以下:訪問リハビリ) に就職し、ご活躍されている濱田氏に高知と東京での訪問リハビリの違いなど、お話を聞く機会をいただきました。

岡村

濱田氏が訪問リハビリに関わるようになったきっかけを教えてください。

濱田氏

私は養成校を卒業後に香川県の病院の回復期病棟で約3年間勤務しました。退職後、回復期で得た経験から退院後の在宅生活を支援したいと思い、訪問リハビリの道を選びました。また、一度は都会で働いてみたいという思いもあったので再就職をきっかけに上京し、現在は訪問リハビリに務めて1年半程度になりました。

岡村

香川県・高知県から東京都へと、働く環境が大きく変わったと思いますが、東京都での訪問リハビリの内容や香川県・高知県との環境の違いなどを教えてください。

濱田氏

私は主に墨田区で訪問をさせていただいています。東京都は、駐車場がないご自宅や道路が狭い場所も多いので、感染対策のための防護具やリハビリテーション (以下:リハビリ) に必要な物品をリュックに入れて、電動自転車で移動しています。雨や雪の日の移動は、レインコートが必要なため大変な時もあります。ご自宅は一戸建ての方が多いたのですが、マンションや都営住宅の方も多く、エレベーターのない場所もあります。

私の担当している利用者様は、高齢者のみでなく、発達障害や精神疾患を患っている小児や青年期の方もいらっしゃいます。

香川県や高知県との大きな違いは、東京都は都外へ住まわれる方が少なく、家族様の支援が受けやすい環境であると感じました。独居の方や身寄りのない方も多くいらっしゃいますが、そういった方達は社会資源を受けている方が多く、見守りの体制が整っている印象です。また、スーパーやコンビニエンスストアなどの資源は多いのですが、病院が遠方の方が多く、通院が困難な方は往診を検討することが多いです。

岡村

訪問リハビリに関わるようになってよかった事や印象に残っているエピソードはありますか？

濱田氏

実際の生活場面でのリハビリを行うことで、ADLやIADLのみでなく、交通機関の利用や他職種と連携した社会参加の支援など、OTとしてできる事が多く、やりがいを感じています。疾患や年齢などが様々であり、回復期で働いていた時には小児の方と関わる事が少なかったため、今でも関わりに苦渋する事があります。また、ご自宅でターミナルを迎えられる利用者様もいらっしゃり、私に関わる中で、利用者様や家族様のために、何ができるのか、何をすべきなのか悩んだりもしました。

岡村

利用者様や家族様と関わるにあたり、気をつけている事はありますか？

濱田氏

私は相手に分かりやすく説明することを特に気をつけています。医学的な話やリハビリ内容についても、まずは理解してもらえよう、医療用語のような難しい言葉ではなく簡潔にお伝えするよう気をつけています。また、関わる方の多くは生活に対して大なり小なり不安を抱えていらっしゃいます。その不安を少しでも軽減できるように相手の話をしっかり聞き、ニーズに合わせたリハビリを提供できるように努めています。

岡村

最後に、地域や訪問リハビリに興味がある方にメッセージをお願いします。

濱田氏

訪問リハビリの最大の魅力は、病院を退院された方や地域生活をされている利用者様と、長期に渡って関わり、添い遂げていけるところだと思います。

先ほどもありましたが、地域での作業療法士の役割や必要性は大いにあり、また、疾患等も幅広いため 自分の知識や経験を得る事ができます。まだ私自身の経験年数は1年半と浅いため、今後も訪問リハビリの魅力をみつけていこうと思います。

取材者：岡村 亜弥（いずみの病院）